

二〇一七年度 光塩女子学院中等科【第三回】

国語入試問題

二〇一七年二月四日（土）実施

《注意事項》

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- ② 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
- ③ 解答は、解答用紙に書きなさい。
- ④ 記述問題の字数については、すべて句読点をふくみます。

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「考える」ということは単に「知る」ことではありません。「知った」ことを基礎きそにして、そこから単に見たり聞いたり、あるいは本を読んだりしても知られないことを（あ）ミチビいてゆくことが「考える」ということであり、これこそ真の意味で判断するということなのです。判断するためには考えることが必要なのです。

a 秀吉ひでよしの生涯しやうがいのをよく「知った」上で、秀吉ひでよしの（い）ギョウセキの意義を評価しようとすれば、それは「考える」ことを要求します。あるいは花の赤さを見て、その赤さはどうして生ずるのかということを研究してゆくならば、それは単に「知る」ことではなく、「考える」ことです。そして重要なのは、この「考えて」「判断を下す」ということです。

もとより、実際には「考える」ことと「知る」ことは今述べたようにはつきり区別することはできないでしょう。われわれは1「知る」ために「考える」ことがあります。あるいはむしろ科学的研究などはすべて「知る」ために「考える」ということであるかもしれません。たとえば歴史上の人物で生没年せいぼつねんの分からない人がいるとします。この場合歴史家はいろいろの資料を当たってそれを比較ひかく（う）ケントウしながら、その人の生没年せいぼつねんを推定しようとするでしょう。この推定のためにはもとより「X」ことが必要です。どの資料にもその人の生没年せいぼつねんが①明示めいじされていないとすれば、歴史家はみずから考えて、何らかの根拠こんきよからその人の生没年を推定するほかはありません。このように「知る」ことのためにも「考える」ことが必要なのです。

しかしそれにしても「考える」ことと「知る」こととが違ちがうことは明らかです。2 単に「知る」ことは「考える」ことではなく、真に判断するためには「考える」ことが必要なのです。

このように「知る」ことはなお「考える」ことではなく、判断は「考える」ことを要求しますが、しかし正しい判断を下すためには、**b** 正しく考えるためには、判断を下すべき対象について正しく知ることが大切であることはいままでもないことです。対象について誤った知識を持っていて、その対象についての正しい判断を下すことは絶対にできるものではありません。対**c** われは対象について正しく知ることにつとめなければなりません。しかしこのことが案外むずかしいのです。

一見すると、対象について正しく知ることは容易なことのようにも思われます。この花が赤いということを知る「知る」ためには、ただその花を見ればよいし、秀吉の生没年を「知る」ためには、辞典でも引けばよいのではないかとわかれるでしょう。たしかにこのような場合には何の困難もありません。だが、対象について「知る」ということはこんな簡単なことばかりではありません。

赤い花についても、② 赤いということとはたしかにその花の持っている性質であり、「この花は赤い」ということはこの花について「知る」ことですが、しかしこの花は赤いということのほかにもいろいろの性質を持っています。そういう性質の全部にわれわれがその花を見ただけで気づくということは決してそう容易なことではありません。植物学者でしたらひじょうに重要だと考えるその花の性質を、われわれは見落としてしまうかもしれません。秀吉の場合も単にその生没年を知ることによって秀吉についての知識が終わってしまうわけではありません。われわれが秀吉について十分に「知る」ためには、秀吉がその生涯において行なった多くの事柄を知らねばなりません。d その多くの事柄の中から、何が重要であるかをより分ける必要があります。かりに秀吉が何年何月何日の朝食に何を食べたかということが「知られた」としても、そういう知識は秀吉を「3 知る」上にまったく重要な意味を持たないかもしれません。一般的にいつて、単にある対象についての知識をむやみやたらに並べたからといって、それが必ずしもその対象について「知る」ことにはならないといえましょう。対象について「知る」ためには、われわれはまさにその対象について本質的意義を持っている知識を持たねばならないのです。しかしそうなると、何がその対象にとって本質的であるかということを見分けることが重要となってきます。そしてこれはきわめてむずかしいことであるといわねばなりません。4 対象について「知る」ことが必ずしも容易でないことはここに十分明らかでしょう。

さらにわれわれの知ろうとする対象は、花とかある人物というようなものばかりではありません。5 もっともつと複雑な対象についてもわれわれは知ろうとします。たとえば日本という国家とか、日本人の性格というような対象の場合はどうでしょうか。われわれはこれらの対象を簡単に知りうるということができるでしょうか。現代における日本という国家ということに問題を限つてみても、ある人は日本という国家の持っている悪い面ばかり強調するかもしれません。それに対して他の人は日本の持つよい側面のみに注目するかもしれません。たとえこの二人の人のいうことがいずれも正しいとしても、とにかくここに示される日本という国家についての知識はまったく正反対の性格を持つことになるわけです。日本人の性格というような場合もまったく同様であることは改めて

いうまでもないでしょう。アメリカ合衆国とかソビエト連邦、中華人民共和国などを訪れた人のそれらの国々についての印象が、その人たちがこれらの国々について好意を持っているか否かといふことによつてまったく異なつてしまうことは、だれでもすぐ気づくことでしよう。

このように考えてみると、対象について「知る」ということが案外むずかしいことであることが分かるでしょう。6 それではわれわれはどうすればこの困難を乗り切るができるでしょうか。対象を正しく知るためにはわれわれはどうすればよいのでしょうか。

(岩崎武雄の文章による)

問一 〓 (あ)「ミチビいて」、(い)「ギョウセキ」、(う)「ケントウ」のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 空欄 a 〓 d にあてはまる語を次のア〜オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ すなわち ウ たとえば エ したがって オ なぜなら

問三 (一) 〓 ①「明示」と同じ組み立ての熟語を次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 読書 イ 再会 ウ 思考 エ 進退

(二) 〓 ②「赤い」とありますが、「赤」を使った慣用表現「赤の他人」、「真つ赤な嘘」で用いられる「赤」は色彩を表していません。ここでの「赤」はどのような意味ですか。簡潔に答えなさい。

問四 1 『知る』ために『考える』とありますが、この例として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 着ている服や背景を手がかりに、写真に写っている人物の職業や年齢を明らかにする。
- イ ハトが巣を作る条件を調べて、自宅の近くでハトの巣がある場所の見当をつける。
- ウ 服の素材やデザインの特徴についてデパートの店員にたずねて、デザイナーが服に込めた気持ちを想像する。
- エ 小説の作者がいつ、どこで生まれ育ったのかを確認してから、小説の内容について思いめぐらす。

問五 空欄 X に最もふさわしい一語を本文中から抜き出しなさい。

問六 2 「単に『知る』ことは『考える』ことではなく」と筆者が述べる理由として最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 真に判断するためには、用いる知識が誤っていないことを確かめる作業が必要であるから。
- イ 真に判断するためには、必要な知識を資料から探して考察する方法を発見する必要があるから。
- ウ 真に判断するためには、「知った」ことを基に自分で新たな考えをみちびいていく必要があるから。
- エ 真に判断するためには、「知った」ことと「考えた」こととを区別して知識の整理をする必要があるから。

問七 3 「知る」とありますが、ここでの「知る」の意味を説明した文になるように空欄に当てはまる二字の熟語を本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

- ・対象について重要な意味を持つ A を得て、正しい B を下すということ。

問八 4 「対象について『知る』ことが必ずしも容易でない」とありますが、対象について知ることが難しいのはなぜですか。四十五字程度で書きなさい。

問九 5 「もつともつと複雑な対象」として当てはまらないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 辞典などを用いて調べられないもの
イ 実体がなく、見ることができないもの
ウ 人によってとらえ方や考え方が異なるもの
エ 具体例が少なく、資料が正確でないもの

問十 6 「それではわれわれはどうすればこの困難を乗り切ることができるでしょうか」とありますが、

(一) 「この困難」とは何をさしますか。

(二) どうすれば「この困難」を乗り切ることができるでしょうか。筆者の主張をふまえたうえで具体例をあげてあなたの考えを三行以内で書きなさい。

□ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

1 真の知性とは、たいせつなものと、そうでないものが区別でき、物事にプライオリティ(優先順位)をつけることができ、また、努力して変えられるものと、ただ心静かに受け容れねばならないものが見分けられる聡明さであり、私はそれをバランス感覚だと考えている。

このバランス感覚は物事の(あ)シヨリにおいて必要なことは言うまでもないが、人間関係においては欠くことのできない安全弁となる。ちょうど車を運転する際、適当な車間距離をとって初めて安全、かつ快適な走行が可能になるように、人間関係においても、人間距離とでも呼んだらいい距離感覚を持っていないと、ふとした弾みに、衝突したり追突する(い)キケンがある。遠過ぎず、さりとて近過ぎ過ぎず、相手に応じ、また時に応じて距離を調整する聡明さである。

① 人間、時に甘えてもよいが、甘ったれてはいけない。それは、子どもの時代に許されていた甘えのたぐいを、大人になった時点でも持ち続けたらよいというのではないが、適当に甘えることができないとギスギスしてしまうことがある。「もう少し兄嫁に甘えてくれたらいいのに」、と私は生前の母について何度思ったか知れない。母は、「他人さまのお世話にならない」ことをモットーとし、誇りとした明治の女であった。しかし、いかんせん、八十歳を越した母の身体に昔の力はなく、気ばかり強かった母の老後はかくて寂しいものであった。

若い人でも「おことばに甘えて……」といった心の柔軟性を持った方がよい。あまり②肩ひじを張らないで、甘えることを知っていた方がいい。

かといって、甘ったれてはいけないのである。つまり、いつも「おことばに甘えて」ではいけないので、このあたりが、人間関係におけるバランス感覚の極めてたいせつなところである。

私は人間の魅力は、二つの極の間の緊張とそのバランスにあると思っている。老人が持っている若々しい感動、その反対に若者の中に見出す思いがけない円熟味、同じように、「いつもお世話になっています」という柔らかな物腰の中に秘められた、「いつでもお世話を打ち切ってください結構です」という強さ、そこに緊張があり、新鮮味がある。寄りかかっているかに見えて、いつ③肩を外されても構わない心積もりが、そこにはある。甘ったれている人というのは、身体全体を相手にすっかり預け切っていて、しかも果てしなく寄りかかっている人である。女性に、そうされたいと願う男性がいるのかも知れない。しかし、そのような甘えは、いつか相手にとって煩わしい(う)オモシとなる可能性を持っていると知らねばなるまい。

聡明な女性は「2 感情を断つ」強さを持つている。それは決して感情を持たないことではなくて、むしろ豊かに持ちながら、それに溺れることなく、適当にシヨリすることのできる能力である。悲しく思うこと、口惜しいこと、生きてゆく上にはさまざまの経験があり、それを素直に感じていきたい。しかし、その感情をいつまでも玩んだり、そこから立ち上ることができない時、それは適当な④の欠如の表われでしかない。特に自分の不機嫌さで、他人の生活まで暗くする権利を、私たちは誰も持っていないのである。

雅性ということばは、日本語にはないかも知れない。優雅の雅であり、粗野、下品とは全く無縁のものであるが、同時に、それはお上品ぶることでも、しなをつくることでもなく、⑤心のゆとりが、かもし出す美しさ、心の気高さである。

とある小学校の同窓会席上での出来事であった。卒業して五十年近くも経つと、かつては同じクラスで机を並べてともに学び、ともに騒ぎ合っていた者たちも、それぞれに相当異なった道を歩いたことになる。中には大使夫人になった人もいれば、卒業後田舎に引越した人も、農作業一筋に生きてきた人もいた。やがて洋食のしかもフルコースが運ばれてきて話は弾む。フルーツが出る頃、指先を洗うためのフィンガーボウルが置かれた。見るからに清冷な水が磨き上げられた銀器に入って出された時、片田舎に住みついて五十年の人は、やおらボウルを手にとつてそれを飲み干したのである。皆がハツと息を呑んだ時、近くに坐つていた大使夫人も、つと手を伸ばして、自分もまたボウルの水を飲んだのだ。その時の夫人の美しさこそは雅性そのものだった。それはたしかにエチケットに反することであったが、まさに「礼」に適つたこと、他人に恥をかかせまいとする咄嗟の思いやり、優しさの表われであった。

今の若い人たちの一つの大きな特徴は「目立ちたがり屋」ということだろう。目立つためには奇抜な（え）フクソウ、アクセサリーの必要はない。現在、もつとも人目を引き、しかも好ましい印象を与えるのは、日本女性の特性でありながら失われつつある優雅さである。男女同権もいい。男女雇用機会均等法も結構なことである。しかし⑥女性を美しく、好ましくするものは、昔も今も変わることなく、温かいほほえみ、美しいことば、さり気ない心くばり、礼儀正しき、そして恥じらいを知る慎みと覚えておきたいものである。〈中略〉他人に話してよいことと、胸におさめておくべきこと、感情に表わしてよいことと、その程度を知り、しかるべき時にその感情を抑えることは、周囲に流されない心のゆとりの表われであろう。

⑦「面倒だから、する」という合言葉を学生たちと交わしている。日本語としておかしい言いまわしかも知れないが、美しさというものは、このような生き方の繰り返しによってのみ生み出されてゆく。

脱いだ靴を揃えること、後続の人のためにドアを押さえて待つこと、他人と挨拶をする時に面倒と思つても手袋、マフラーを取り、時にはコートも脱ぐこと、それこそ一銭の得にもならないようなことが、人をして「好ましい人」に変えていく。礼儀は形ではない。

自分の、とかく易きにつこうとする肉体に対する精神力の闘いであり、その勝利なのである。雅性と呼ばれるものは、かくて、自己と熾烈な闘いの戦利品であり、3 闘い終わって日が暮れた時、初めて訪れる「平安の美しさ」であり、ゆとりの美しさでもある。この平安とゆとりが常時、ほほえみとなる時、それは相手に対して「癒し」の力を持つものとなる。

もし あなたが 誰かに期待した

ほほえみが得られなかったら

不愉快になる代わりに むしろ

あなたから 4 ほほえんでごらんなさい

実際 ほほえみを忘れた人ほど

あなたからのそれを

必要としている人はいないのだから

今から二十年程前に与えられたこの短い詩が、何度私の荒みがちな心を救ってくれたことであろう。相手のペースに巻き込まれてはいけない。相手のレベルに下がってもいけない。むしろ、相手の身を思いやるゆとりを持って自分を失わない強さと優しさの共存、それが女性の魅力であり、財産でもある。
(渡辺和子の文章による)

※注 聡明さ…物事の理解がはやくかしこいさま。 さりとて…そうかといつて。 モットー…日常の行動の目標。

いかんせん…どうしようもないことに。 かくて…このようにして。

円熟味…人格、技能などが十分に熟達して内容が豊かであるさま。 玩んだり…手にとってあそんだり。

欠如…欠けていること。 足りないこと。 粗野…言動などがあらあらしいこと。 しなをつくる…こびた態度をする。

やおら…ゆつくりと。 しずかに。 つと…さつと。 男女雇用機会均等法…仕事における男女平等を目的として制定された法律。

とかく易きにつこうとする…楽なほうを選ぼうとする傾向が強い。 熾烈な…勢いがさかんで、はげしいさま。

問一 〓 (あ)「シヨリ」、(い)「キケン」、(う)「オモニ」、(え)「フクソウ」のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 〓 ①「人間、時に甘えてもよいが、甘ったれてはいけない」とありますが、甘えることと、甘ったれることの違いについて説明した次の文が完成するよう、あとの問いに答えなさい。

・「甘える」というのは (1) (心を持つこと)であり、「甘ったれる」というのは、(2) (こと)である。

(一) 空欄 (1) を、本文中の言葉を用いて五字以内でうめなさい。

(二) 空欄 (2) に当てはまる三十五字前後の部分を本文中から探し、初めと終わりの五字をそれぞれ答えなさい。

問三 〓 ②「肩ひじを張らないで」、③「肩を外されても」のここでの意味として最も適当なものを、それぞれのア～エから選び、記号で答えなさい。

② 「肩ひじを張らないで」

ア うそをつかないで イ 泣き言を言わないで

ウ 暗くならないで エ 強がらないで

③ 「肩を外されても」

ア 支えてもらえなくなっても イ 期待されなくなっても

ウ 心配してもらえなくなっても エ 仲間でなくなっても

問四 〓 空欄 ④ に最もふさわしい六字の言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。

問五 〓 ⑤「心のゆとり」とありますが、筆者の考える「心のゆとり」とはどのようなことですか。次のア～カから適当なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物事に優先順位をつけないこと。
 イ 周囲に流されないこと。
 ウ 感情を全く表に出さないこと。
 エ 相手の身を思いやること。
 オ 好ましい印象を与えようとする事。カ 自分を捨てて相手に合わせる事。

問六

⑥「女性を美しく、好もしくするものは、昔も今も変わることなく、温かいほほえみ、美しいことば、さり気ない心くばり、礼儀正しさ、そして恥じらいを知る慎みと覚えておきたいものである」について、次の(一)(二)の問いに答えなさい。

(一)本文中□で囲まれた部分で紹介された出来事は、次のア～オのどれと最も関連が深いか、記号で答えなさい。

- ア 温かいほほえみ イ 美しいことば ウ さり気ない心くばり
 エ 礼儀正しさ オ 恥じらいを知る慎み

(二) (一)のように判断したのは、大使夫人のどのような行動によりますか。簡潔に答えなさい。

問七

⑦『面倒だから、する』という合言葉を学生たちと交わしている。日本語としておかしい言いまわしかも知れないが、美しさというものは、このような生き方の繰り返しによってのみ生み出されてゆく」について解説した次の文章を読み、あとの(一)(二)の問いに答えなさい。

一般的には、「面倒だから、**ア**」、または「面倒だが、する」が自然な言い回しであろう。ところが筆者は「面倒だから、する」という、一見食い違っているように思える合言葉を学生たちと交わしているという。

ここで、「面倒だから、する」と「面倒だが、する」の違いについて考えてみよう。

「面倒だから、する」は、「面倒だが、する」と比べて、事に当たる態度が**イ**的である。そこには、面倒だからこそあえて立ち向かおうとする**ウ**性を感じられる。その行動はまさに「自分のとかく易きにつこうとする肉体に対する精神力の闘い」であり、「自己との熾烈な闘い」である。そのような姿勢が、人としての美しさを育んでいくのだ。

(一) 空欄 ア にあてはまる言葉を五字以内で考えて答えなさい。

(二) 空欄 イ、 ウ にあてはまる語を次の語群からそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。ただし、 イ、 ウ には異なる語を入れることとします。

語群 【 イヨク ショウキヨク ムヨク セツキヨク 】

問八 1～4 についての説明として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 1 「真の知性」とは、物事を区別せず、すべてのことに全力でぶつかる強さのことを示している。

イ 2 「感情を断つ」とは、不機嫌になるのを避けるために、感情を持たないように努めることを意味している。

ウ 3 「闘い終わって日が暮れた時」とは、自己との闘いに敗れて疲れた状態のことである。

エ 4 「ほほえんでごらんさい」とは、ほほえみが相手に与える「癒し」の力を信じての言葉である。

問九 この本文は「こんな女性が好かれる人」というタイトルの文章の一部です。ここでは、「好かれる人」になるための条件として

「知性」と「雅性」が挙げられています。筆者は続いて「安定性」も条件として挙げ、次のように記しています。

・安定性の根本にあるものは、「私は他の誰にならなくてもよいのだ」という、自己の存在そのものについての安定感である。

「好かれる人」になるために求められる「安定性」とはどのようなものだとあなたは考えますか。筆者の言葉をふまえ、自分の体験を織り交せて、百字以内で答えなさい。

